

第4節 地球環境

地球環境問題から身近な環境問題まで、それぞれに対する現状認識や、現在関心のある問題は何か、普段の生活が環境行動にどの程度結びついていくかを尋ねました。

1. 環境に対する現状認識

現在の地球、日本そして松阪市の環境についての問いで地球環境については、「悪化している」が

55.5%と半数を超え、日本の環境については、「悪化している」が44.8%と地球環境より低い結果となりました。

松阪市の環境については、「悪化している」が19.0%と、地球環境や日本の環境に比べて低くなりましたが、「やや悪化している」を加えると50.5%となり、地球環境や日本の環境に比べれば深刻ではないものの、当市の環境が悪化していると考えている人が多い傾向にあるといえます(図15参照)。

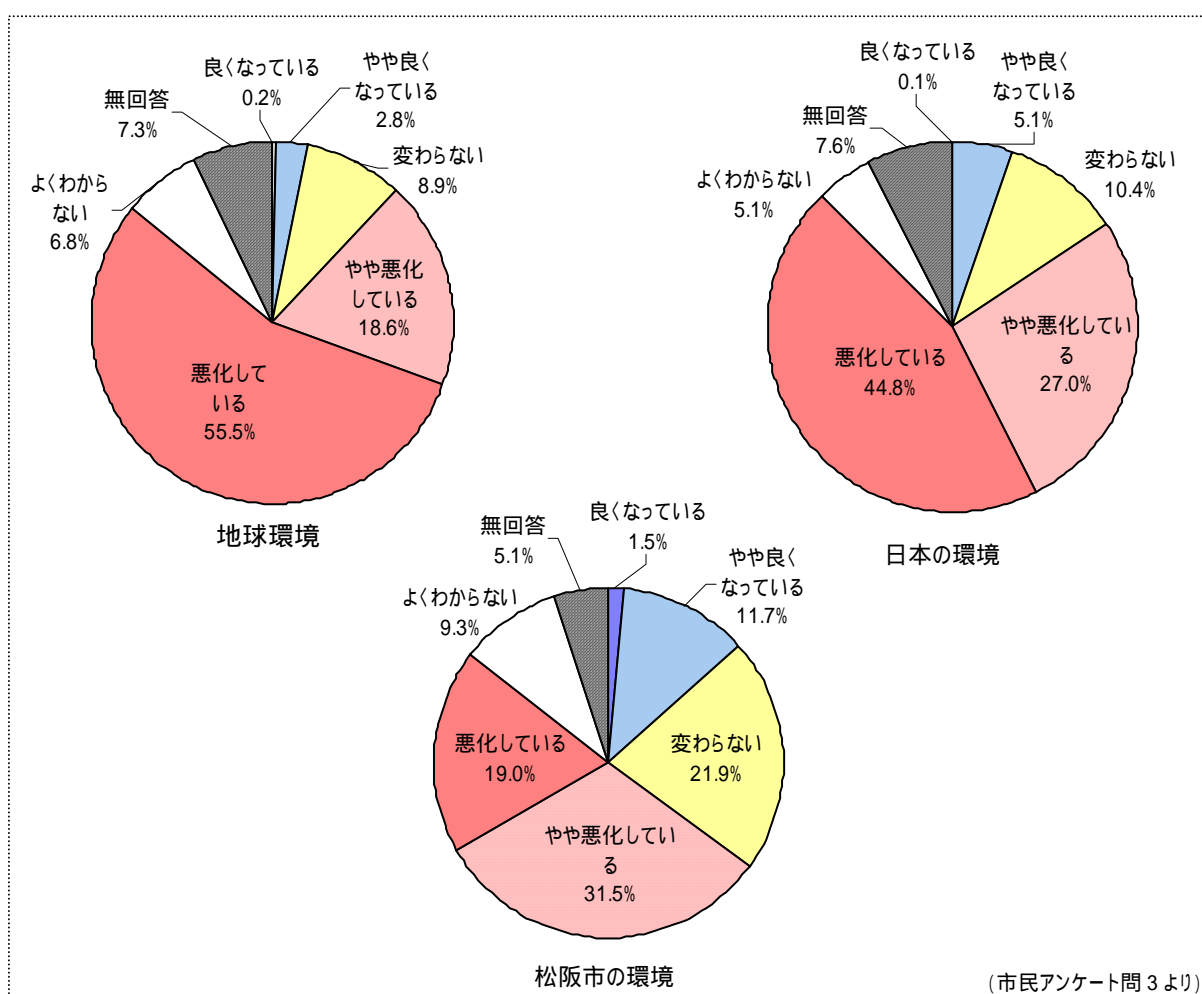


図15 地球環境、日本の環境および松阪市の環境に対する現状認識

2. 地球環境問題に対する関心度

現在最も関心のある地球環境問題については、「温室効果ガスの増加による地球温暖化」が54.2%と最も多く、次いで、「水質汚濁」「大気汚染」「有害廃棄物の越境移動・不法投棄」「オゾン層の破壊」の順

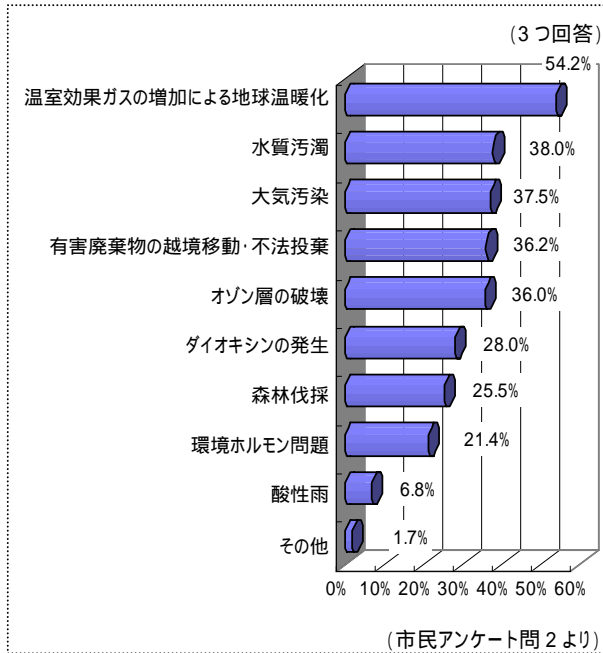


図16 現在最も関心のある地球環境問題

となっています(図16参照)。

また、自由意見として、「食品の安全性」「異常気象」「子供達の未来への不安」など様々な問題が寄せられ、不安を抱いている市民もいることがうかがえます。

3. 日常生活の中での環境行動

普段の生活の中で行っている、環境をよくするための行動については、「決められたごみの分別を守る」「近所の迷惑にならないように騒音に気をつける」「使用していない照明やテレビは消す」など、比較的すぐに取り組める行動については行っている結果となりました。一方、「風呂水を再利用する」「買い物時には袋を持参する」「生ごみの堆肥化を行う」など、手間や経費のかかる行動については、「今後とも行うつもりはない」と答えた市民が多く、取り組みを行うことに消極的である傾向があることがわかりました(図17参照)。

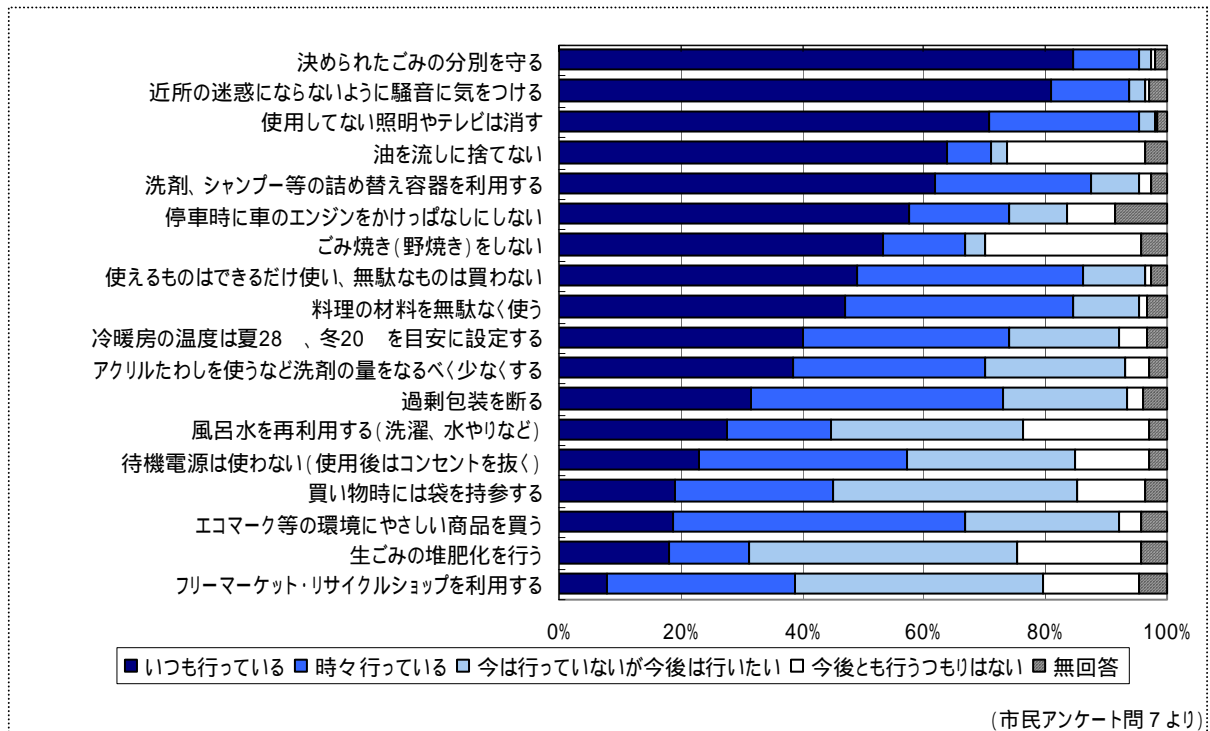


図17 普段の生活の中で行っている「環境をよくするための行動」の実施状況

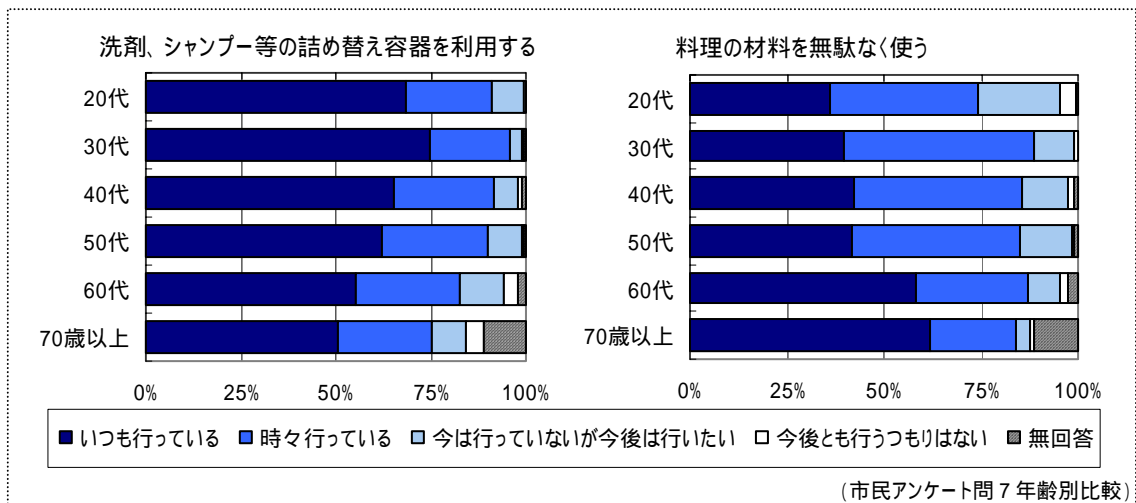


図 18 「普段の生活の中で行っている環境をよくするための行動」の実施状況の年齢別比較

また、年齢別に見ると、「洗剤、シャンプー等の詰め替え容器を利用する」では、若い人の方が行っており(図 18 参照)、「ごみ焼き(野焼き)をしない」の項目においても同様の傾向があることがわかりました。

一方、「料理の材料を無駄なく使う」「アクリルたわしを使うなど洗剤の量をなるべく少なくする」(2 ページ図 4 参照)では、年齢が高くなるほど行っている傾向があります(図 18 参照)。このように、年齢によって環境行動への取り組みに差がみられました。

まとめ

市民の多くは、地球環境や日本の環境に対して悪化していると感じていますが、本市の環境については、地球規模の問題ほど深刻ではないと感じているようです。

環境問題では、「地球温暖化」に強い関心を持っていることがわかりました。また、自由意見からも地球規模で環境問題を捉えている市民が多くいることがわかります。

一方、普段の生活の中でできる環境行動については、比較的取り組みやすいと思われる行動は、積極的に行うが、手間や経費のかかる行動には消極的であるという傾向がみられました。それに加え、年代によってその取り組み意識に大きな差があるな

ど全体として、環境に配慮した行動が十分に行われているとはいえません。

また、ごみの分別の取り組みは、徹底して行われている一方で、ごみ自体を出さない行動に関しては、意識して取り組んでいないように思われます。今後は、出されたごみを資源として有効利用するとともに、ごみを出さないライフスタイルを確立することが、循環型社会の形成において重要であると考えられます。

地球環境意識に関する言葉に、「Think globally, Act locally! (考えるときは地球規模で、行動は身のまわりの足元・地域から!)」というものがあります。地球規模での起こる深刻な環境問題を解決できるかどうかは、私たちの日常生活における小さな行動の積み重ねにかかっています。地球環境に対する危機意識をいかに自分の行動に結びつけるかが、今後の課題であるといえます。

キーワード

地球温暖化
循環型社会